

ドイツの世界征服思想と日本の八紘一宇思想の違い

<水晶の夜>

1938年11月、パリのドイツ大使館で書記官ラートがユダヤ青年のクリュン・ショパンに射殺された。家族をナチスに迫害された恨みを晴らす犯行だった。この事件がドイツ国内に伝わると、ナチスが扇動し、シナゴーク（ユダヤ教会）やユダヤ商店街で暴動が起こり、750店、90人以上のユダヤ人が虐殺され、街に砕け散ったガラスが水晶のように輝いていた（水晶の夜の名付け親はナチス宣伝大臣のゲッベルス）。



被害を受けたユダヤ人の商店

<日独の接近 -ユダヤ難民救済の背景にある当時の国際状況->

1936年、防共の為に日独防共協定が結ばれた。日本も満州国がソ連と国境を接し、共産主義の浸透に危機感を持っていたと同時に、ソ連を日独とも仮想敵国にしていたのが、この協定が結ばれた理由である。但し、人種政策に関しては、ナチスとは異なる思想（八紘一宇）故に、ドイツとは異なるスタンスを日本は取った。例として、第一次世界大戦後のパリ会議で、日本は「人種差別撤廃条項」を盛り込むよう提案した。これはキリスト教国家や白人国家に対する挑戦とみなされ否決された。

<日本がユダヤ人に親近感を抱いた理由>

日露戦争ではユダヤ人金融家（ロスチャイルド家）ジェイコブ・シフが武士道の著書を通じて日本に信用と敬意を持ち、日本の国債を大量に購入。奇跡の勝利に繋がったことに日本人は感謝の念を抱いていた。自由と民主主義を謳うアメ

リカ人が人種差別で日本人を排斥し、排日移民法を決定したように日本もユダヤもお互いに人種差別の被害者という共通点があった。これがユダヤに対して親近感を生じさせたのであろう。

注) 排日移民法

昭和天皇が敗戦後、日米開戦の遠因として「加州移民拒否の如きは日本国民を憤慨させるに充分なものである」と述べられている。



看板に「ここは白人居住区、日本人は出て行け」と書かれている。

<ユダヤ人に対する豆知識>

ユダヤ人と称せられるのには、アシュケナージ・ユダヤ人とスファラディー・ユダヤ人がある。今のイスラエル国家はアシュケナージ・ユダヤ人に支配されている。即ち、タルムード（議定書）によるユダヤ教の発想で狂信的に支配しているのはアシュケナージ・ユダヤ人である。アシュケナージ・ユダヤ人は本当のユダヤ人ではない。カスピ海の近辺にあった旧カザール人の子孫である。アシュケナージ・ユダヤ人と本当のユダヤ人は何の関係も無い。歴史的、血統的に本当のユダヤ人はスファラディー・ユダヤ人で、アブラハム→イサク→コブの子孫である。又、アブラハムに仕えたエジプト人女性ハガルとの間に出来た子供シュマエルの子孫がアラブ人であり、スファラディーと血を分けた兄弟なのである。故に、アラブ人とパレスチナ人はユダヤ人である。皮肉にも、その事を証明したのがイスラエルアビブ大学のシュロモーサンド教授の著書「ユダヤ人の起源」である。アシュケナージ・ユダヤ人の背後にはイルミナティ・フリーメーソンがいる。イルミナティ・フリーメーソンはEUをして世界政府樹立の第一歩としていた。彼等は古代ローマ帝国の復活を夢見ていた。しかし内部分裂を起こし、路線争いが

起き、実質的に動かすことが出来なくなり、様々な問題が現在噴き出している。イルミナティ・フリーメーソンの実力者は「ロックフェラー一族」だと言われている。

<八紘一字は建国の理想の精神を示すもの！！>

命のビザを繋いだサムライや訓令違反の彼等をなぜ日本政府は処罰せず、その後の活動が許されたのか？それは日本人の心の中に共通し、認め合う、八紘一字の精神が脈々と流れていたからである。では、八紘一字の精神とは何か？出典は「日本書紀」の神武天皇即位前紀にある、次の如き「令（のりごと）」による。日本国の建国の理想の精神を示すものである。

夫（そ）れ大人制（ひじりのり）を立てて、義（ことわり）必ず時に随（したが）ふ。苟（いやし）くも民に利有らば、何ぞ聖の造（わざ）に妨（たが）はむ。且当（まさ）に山林を披（ひら）き払ひ、宮室（おおみや）を經營（おさめつく）りて、恭（つつし）みて宝位（たかみくら）に臨みて、元元（おおみたから）を鎮（しず）むべし。上は乾靈（あまつかみ）の国を授けたまひし徳（みうつくしび）に答へ、下は皇孫（すめみま）の正（ただしきみち）を養ひたまひし心を弘めむ。然して後に、六合（くにのうち）を兼ねて都を開き、八紘（あめのした）を掩（おお）ひて宇（いえ）に為（せ）むこと、亦可（またよ）からずや。

<現代語訳>

そもそも大人（聖人）が制を立てて、道理が正しく行われる。人民の利益となるならば、どんなことでも聖の行うわざとして間違いはない。まさに山林を開き払い、宮室を造つて謹んで尊い位につき、人民を安んずべきである。上は天神の国をお授け下さった御徳に答へ、下は皇孫の正義を育てられた心を弘めよう。その後、国中を一つにして都を開き、天の下を掩ひて一つの家とすることは、また良いことではないか。

歴代の天皇が厳守され、心掛けてこられた「民に利あらしめ」、祖先の「正しきを養いたまいし心」を持って「徳治」に務めながら国内を一つにまとめ、天下を一つの家のように和合せしめることこそ、建国当初からの理想の精神とされたのである。特に明治天皇は「八紘一字四海一家」の思いがお強く、有名な「四方の海 みなはらからと思ふ世に など波風の立ち騒ぐらむ」もこの強い建国の精神から発せられたものと思う。民も天皇の御心を我が心として国を思い、人を思い、公に生きた人が多かったと思う。ユダヤ難民の命を我が身の損得を超え救ったサムライ達も、訓令を破った勇氣ある人たちを罰しなかった政府の要人も、

天皇の御心を我が心として、即ち、八紘一宇の宇宙観、全体観、歴史観で心が結び合った結果であろう。

残念ながら戦後は、ドイツと同盟国であった故、八紘一宇は世界征服の思想と誤解され、学界やマスコミはアジア侵略のスローガンで唾棄すべきものとした。本当にそうであろうか？

繰り返すが、皇道と八紘一宇の原理は、天皇にとっては徳治の為の天皇の守るべき道を示し、民としては天皇の道を知ることが民としての道徳上の目標であった。この誤解（世界征服の思想）は東京裁判で氷解され本意が理解された。天皇や日本人の精神構造が再認識され、世界に誇れる思想として外国の人々に強い印象を与えた。

注) 東京裁判判決

日本帝国の建国の時期は、西暦紀元前六百六十年であるといわれている。日本の歴史家は、初代の天皇である神武天皇によるといわれる詔勅が、その時に発布されたといっている。この文書の中に、時のたつにつれて多くの神秘的な思想と解釈がつけ加えられたところの、二つの古典的な成句が現れている。第一のものは、一人の統治者のもとに世界の隅々までも結合するという事、または世界を一つの家族とするということの意味した「八紘一宇」である。これが帝国建国の理想と称せられたものであった。その伝統的な文意は、究極的には全世界に普及する運命をもった人道の普遍的な原理以上の何ものでもなかった。

戦後の思想と道徳の規準は西洋文明の母胎をなした愛と平和を訴えるキリスト教である。このキリスト教によってユダヤ人は救済されたのか？否である。戦後、ローマ法王は「7つの罪（反ユダヤ主義等）」を全世界に向け懺悔した。世の中は変わって来たのだ。八紘一宇という自らの建国神話を非科学的で野蛮、低級とか、果ては軍国主義、侵略主義の源泉呼ばわりすることは止め、世界に誇るこの思想に我等は深い理解を持つべきであろう。

<八紘一宇の心はいつ、どこから来たのか>

何故そういう信念があったのか？それは神武天皇が即位される以前の神話の時代から引き継がれて来た「心」だと窺い知ることが出来る。その心は「日本書紀」に記されているが、当時の人が勝手に書き上げたのではなく、古代、文字の無いと言われた時代から語り継がれて来た心があったからこそ日本書紀に記されたのだ。神話の中に太古からの日本人の知恵が溢れており、故に、日本が日本

として生きてきたし、日本人独特の宇宙観、そして国家観が出来上がっていたのだ。古事記にある天御中主神（あめのみなかぬしのかみ）の「明るく幸せな和合の世界を創ろう」という神の意志が天照大御神、神武天皇の意志として皇統に引き継がれて来た。天御中主神から天照大御神、神武天皇、現在に至る天皇まで、国民のことを大御宝（おおみたから）として慈しまれる天皇陛下の御心は見返りを求めないで、現在も我々に限りない慈愛を与え続けておられるのは、実は天照大御神や神武天皇の御心でも、また、御使命でもあらせられる。言い換えれば、建国の御心、八紘一字、即ち「相手を思いやる心」、「皆一家の兄弟とみなす心」で日本の皇室は続いて来たのだ。命のビザを繋いだサムライ達、政府要人に神話時代の日本人の心が生きていたのだ。

「六合（くにのうち）を兼ねて都を開き、八紘（あめのした）を掩（おお）ひて宇（いえ）に為（せ）む」の心を持つ日本人として生んでいただいたことを小生は感謝し、日本人としての誇りを感じずるものである。

< 呉 善花（お そんふぁ）の言葉 >

世界が理想としながら作り上げることが出来なかった社会、それを日本は作り上げることが出来た。それはなぜか。日本人には「和を持って尊し」とする調和の精神があるからこそです。対立で無く融和、それはこれからの世界を作っていく人類的な課題にほかならないでしょう。

< 「江戸時代の遺産－庶民の生活文化」の著者スーザン・B・ハンレー氏 >

彼は中世において、もし貴族に生まれるなら英国に、もし平民に生まれるなら江戸時代の日本に住みたいと日本を評価した。

今、見直したいのは、日本人の精神性「八紘一字」である。しかし注意すべきは、韓国や中国の「被害者」という芝居に、首をうなだれて「良心派」を気取って陶醉する偽善者の左派のインテリや朝日新聞等のマスコミは、それが偽善であり、この偽善の善に感傷し陶醉するナルシズムの自己に気付いていない。これは日本人としての精神や、日本人としての美学を誤解している証左である。偽りの善に我々日本人は無頓着過ぎたのではなからうか？ 日本人特有の精神である八紘一字の精神を「被害者顔」の両国の芝居に逆利用された気が、私はしてならない。

平成26年12月18日

志雲会塾長 有馬正能